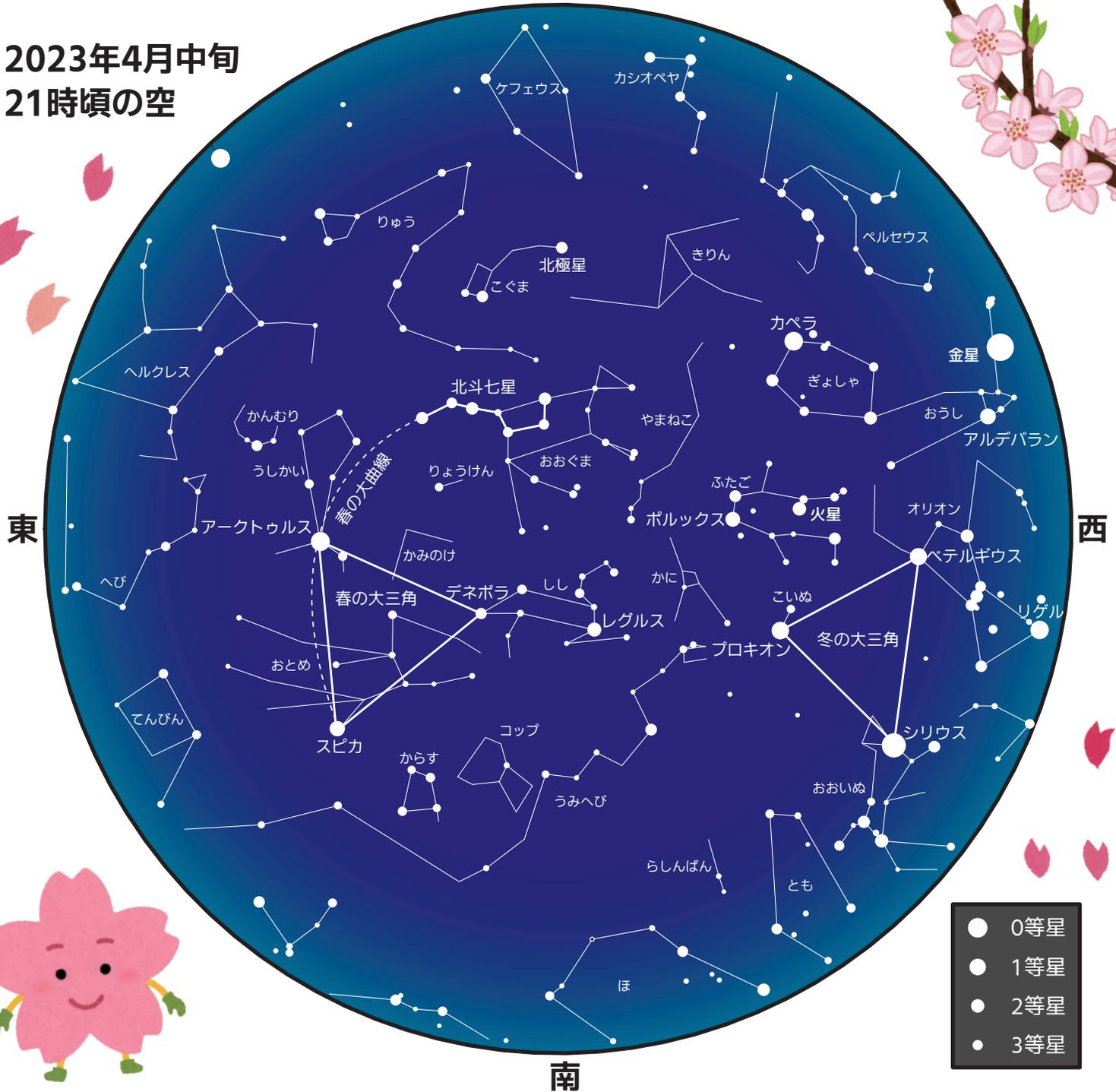


阿南市科学センター 4月の星空案内

北

2023年4月中旬
21時頃の空



各地から桜の便りも届き、本格的な春の訪れを感じる季節となりました。夜空ではちょうど冬と春の境目となり、それぞれの季節を代表する目印が見えています。西の空やや高い所には、シリウス（おおいぬ座）、プロキオン（こいぬ座）、ベテルギウス（オリオン座）からなる冬の大三角が輝き、変わって東の空高くには、アークトゥルス（うしかい座）、スピカ（おとめ座）、デネボラ（しし座）からなる春の大三角が見えています。下旬になると冬の大三角は見ごろを終え、夜空もいよいよ春真っ盛りとなります。さて、春の大三角の星たちを観察してみると、明るさの違いに気がつくかもしれません。アークトゥルスは0.0等、スピカは1.0等、デネボラは2.1等と、デネボラだけ少し暗い2等星となります。

ところで4月は6日に満月をむかえるため、4月の初めごろでは宵のうちでも月が見られます。花見で一杯、月見で一杯。花札を連想させる世界が広がりそうですね。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 4月の月の満ち欠けと惑星について



満月
6日



下弦
13日



新月
20日



上弦
28日

4月の天体観望会で月が見える日時は？



4/1(土) 全ての回で観察可能



4/29(土) 全ての回で観察可能

水星：29日に東方最大離角となり、日没後、西の低空に見える。【約0.6等】

金星：日没後、西の空に見え、夜遅くに西の空へ沈む。【約-4.2等】

火星：夜のはじめごろから見られ、夜遅くに西の空へ沈む。【約1.5等】

木星：夜明け前、東のごく低空に見える。【約-2.1等】

土星：未明に東の空から昇り、夜明け前には南東のやや低空に見える。【約1.0等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ5/29ごろの明るさ。

今の時期の1番星は、太陽が沈んだ後に西の空に見える金星だよ！



5月3日～5日には金星の観望会も実施予定！
詳しくは科学センターHPへ！

■ 今月オススメの天体（天文 春の銀河まつり）

★春は曙、春の夜は銀河

春オススメの天体というと**銀河**があります。春の星座としても知られている、おとめ座・しし座・かみのけ座などの方向には数多くの銀河が見られるためです。銀河とは、数多くの恒星と、ガスやチリなどといった星間物質が集まった天体のことです。私たちが暮らしている地球も、**天の川銀河**という銀河の中に存在しています。

さて、銀河にはいろいろな種類があることをご存知でしょうか。銀河は目で見える光で撮影した姿により、大まかに**楕円銀河・渦巻銀河・レンズ状銀河・不規則銀河**の4つに分類されています（**ハッブルによる分類**）。今回紹介する写真1の**M83**、写真2の**M105**を見比べてみましょう。M83は中心の明るい部分、それから周りでぐるぐると渦を巻いているような様子が見られるため**渦巻銀河**に分類されます。一方、M105はM83に見られたような渦巻の構造はありません。円形のぼんやりとした光があるだけのような姿です。こちらは**楕円銀河**に分類されています。



写真1.M83棒渦巻銀河(うみへび座) (A.Suzuki)

渦巻銀河と楕円銀河は見た目だけでなく、性質も異なっています。渦巻銀河はうず状の部分に**ガスやチリ**などが多く存在し、活発に星が生まれています。M83の写真を見てみると、渦状の部分に黒い筋（ガスやチリなどが密集している部分）が見えますね。ところが、楕円銀河には星が生まれるのに必要なガスがほとんどありません。そのことから、楕円銀河ではほとんど新しい星が生まれていないと考えられています。また、比較的年輩いた星たちが多く集まっていることがわかっています。ひとえに銀河といえども、なぜここまでバリエーションに富んでいるのかは、未だわかっていません。

広い宇宙にはまだまだ沢山の謎があります。春の夜に、遠くの宇宙へ思いをさせてみてはいかがでしょうか。



写真2.M105楕円銀河(しし座) (A.Suzuki)